

三次地区医師会開業医の先生をご紹介します。

No.31

三浦クリニック

特徴

当院は、吉舎町のほぼ中心部・美術館あーとあい・きさ近くに位置する内科診療所です。代々この地で医業を営んでおり、平成7年に医家8代目として父から診療所を引き継ぎました。日頃から、患者さんとそのご家族に寄り添えるかかりつけ医を目指し、在宅医療にも力を入れています。

医療センターへひと言

検査や入院など、医療センターの皆さまにはいつも迅速に対応いただき、ありがとうございます。

パーキンソン病だった父が、医療センターで長期にわたり大変お世話になった経緯もあり、思い入れはとても深いです。

これからも我々開業医の後方支援病院として、地域の人々から信頼され愛される病院であり続けてください。



先生とスタッフの皆さん

取材後記

午前中の診察終了後、スタッフの皆様でクリニックの中と外のお掃除をされており、とても綺麗でした。

受付にはAI問診が導入されており、先生・スタッフの方に説明して頂き大変勉強になりました。

お忙しい中ありがとうございます。



診療受付時間

月・火・木・金/ 8:30~12:15
14:30~18:15
水・土/ 8:30~11:45

休診日

水・土午後・日・祝日

診療科目

内科・胃腸科



広島県三次市吉舎町吉舎770
Tel:0824-43-2020



理念

全人的医療を目指します。
地域密着型の医師会立病院としてかかりつけ医と連携し、患者様に満足の頂ける医療・ケアを行います。

訪問看護ステーションスクラムのサテライト開設



訪問看護ステーションスクラムのサテライトは、同法人事業所であるスクラムと医療センター看護師の交流、訪問看護と病院看護の相互理解を深め連携強化を図ることにより、医師会事業所として在宅療養と入院療養のより良い支援に繋げることを目的としています。



本年5月よりスクラムと医療センターのワーキンググループで検討を重ね、医師会2階に事務所を構え9月1日より稼働をしています。

スクラムは、医療センターの入退院の流れや退院調整について理解し、入院の相談や退院後の訪問の受け入れ等入院療養支援につなげること。

医療センターは、訪問看護について理解を深めるとともに、スクラム利用者のレスパイト入院の受け入れ等を円滑に行うなど在宅療養支援に繋げることができるよう取り組んでいます。

毎月1回、地域医療連携・患者支援室の運営会議とスクラムサテライトの連携会議を合同で行っています。

現在2か月経過していますが、日々の患者情報がタイムリーに情報交換できる、退院前地域カンファレンスへの参加など、在宅へ向けての連携がとりやすいとスクラムと医療センター職員の双方から好評を得ています。

引き続き患者様のより良い支援に繋げられるよう連携を深めていきたいと思っております。

看護部長 小林 真理子



新型コロナウイルス感染症に関する面会制限について

現在「院内ステージ3」、面会を原則**全面禁止**しております。
※状態悪化・終末期、医師が面会を許可した場合、病院から依頼した場合は人数を制限した上で個別に対応します。
※タブレットでの面会も水・木曜日に実施しています(要予約)。
※荷物の受渡しは、1階ロビーで**13時半~17時(月~金)**となっております。
※タブレット面会は祝祭日を除く。荷物の受渡しも原則祝祭日以外でお願いしていますが、難しい場合はお知らせ下さい。
ご不便をおかけしますが、患者様への感染防止のためご協力をお願い致します。

三次地区医療センター

〒728-0013

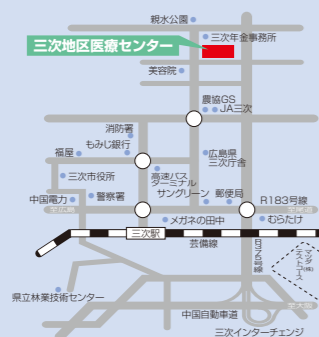
広島県三次市十日市東三丁目16番1号

TEL.0824-62-1103

FAX.0824-62-7341

E-mail:info@miyoshi.hiroshima.med.or.jp

ホームページ:http://www.miyoshi.hiroshima.med.or.jp/



地域医療連携・患者支援室

令和4年度は、在宅支援室を設置し5年目を迎えます。在宅支援室としての機能や役割が定着してきた半面、課題も見られるようになりました。現状の組織体制は地域連携室と在宅支援室は入院前と入院から退院まで別部門になっており院外からも窓口が2つあることで役割や機能がわかりづらいとの意見もあり、在宅支援部門として組織的な見直しが必要となりました。



ワーキンググループで検討を重ね、10月1日より一部門として再スタートしました。

部署の名称は“地域医療連携・患者支援室”とし「地域連携係」「患者支援係」の2つの係に分けて対応しています。「地域連携係」は、地域連携業務、「患者支援係」は入退院支援を行っています。

電話対応時は、「～係の〇〇です。」と対応しますのでよろしくお願いいたします。

地域における医療ニーズの質・量の変化に伴い、入院前から退院までの一連の業務を治療と並行しながら医療ソーシャルワーカーと入退院支援看護師が互いの専門性を活用し、関連多職種との連携・協働や情報共有がより円滑にできる事。それにより、基幹病院やかかりつけ医からのsubacute患者、新型コロナ感染症の後方支援等、スムーズな入院の受け入れや安心して生活できる場へのより充実した退院調整を行い、当センターの役割を引き続き担ってまいります。

看護部長 小林 真理子

三次市四病院連絡協議会研修会



広島大学病院リハビリテーション科教授 三上幸夫先生を講師にお迎えし、令和4年度 三次市四病院連絡協議会研修会が行われました。最初に広島大学病院リハビリテーション科の紹介と心不全センター、スポーツ医科学センターも含めた活動報告についての話があった後、リハビリテーション医学・医療とリハビリテーション科医の専門性について説明がありました。

リハビリテーション医学・医療とは「機能を回復し、障害を克服し、活動を育む」ものであり、リハビリテーション科医はICF（国際生活機能分類）の概念に基づいて、リハビリテーション治療・支援を行い、患者さんの機能回復と活動性の改善をめざすことだと話されました。

今回の研修を通じて、高齢化がますます進んでいく中、リハビリテーション医療に対する需要・関心は社会全体で高まっており、地域でも人々の「活動を育む」ためにICFの概念が広がり、ICFを共通言語にしていくことの必要性を認識できました。また、医療者として質の高いリハビリテーション医療の提供が求められていることを参加者全員が肌で感じた研修会でした。

リハビリテーション技術科 主任 河原田 竜生

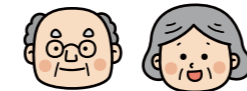


えんげ 嚥下の機能をチエツクして健康を保ちましょう

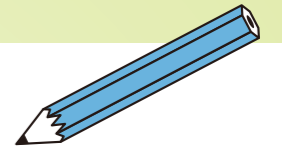
「オーラルフレイル」という言葉をご存知ですか？

オーラルフレイルとは、「かたいものが食べにくい」、「食べていると口からこぼれる」、「お茶を飲むとむせる」などのお口の機能が低下しつつある状態をさします。これを放置していると嚥下（食べる）機能の低下へつながり、低栄養や活動の低下といった全身状態にも影響を及ぼします。これを防ぐためには「お口のささいな機能低下を見逃さない」ことが非常に重要になってきます。

そこで、今回は嚥下の機能をはかる指標の一つである「聖隷式嚥下質問紙」をご紹介します。まずは以下の質問紙でチェックして、ご自身の状況を把握してみましょう。



せいれいしきえんげしつもんし 聖隷式嚥下質問紙



あなたの嚥下（飲み込み、食べ物を口から食べて胃まで運ぶこと）の状態について評価します。以下の質問について、ここ2、3年から最近までの状態で該当する項目（A、B、C）にチェックしてください。

	A	B	C
1. 肺炎と診断されたことがありますか？	<input type="checkbox"/> 繰り返す	<input type="checkbox"/> 一度だけ	<input type="checkbox"/> なし
2. やせてきましたか？	<input type="checkbox"/> 明らかに	<input type="checkbox"/> わずかに	<input type="checkbox"/> なし
3. 物が飲み込みにくいと感ずることがありますか？	<input type="checkbox"/> しばしば	<input type="checkbox"/> ときどき	<input type="checkbox"/> なし
4. 食事中にむせることがありますか？	<input type="checkbox"/> しばしば	<input type="checkbox"/> ときどき	<input type="checkbox"/> なし
5. お茶を飲むときにむせることがありますか？	<input type="checkbox"/> しばしば	<input type="checkbox"/> ときどき	<input type="checkbox"/> なし
6. 食事中や食後、それ以外の時にのどがゴロゴロ（痰がからんだ感じ）することがありますか？	<input type="checkbox"/> しばしば	<input type="checkbox"/> ときどき	<input type="checkbox"/> なし
7. のどに食べ物が残る感じがすることがありますか？	<input type="checkbox"/> しばしば	<input type="checkbox"/> ときどき	<input type="checkbox"/> なし
8. 食べるのが遅くなりましたか？	<input type="checkbox"/> たいへん	<input type="checkbox"/> わずかに	<input type="checkbox"/> なし
9. 硬いものが食べにくくなりましたか？	<input type="checkbox"/> たいへん	<input type="checkbox"/> わずかに	<input type="checkbox"/> なし
10. 口から食べ物がこぼれることがありますか？	<input type="checkbox"/> たいへん	<input type="checkbox"/> ときどき	<input type="checkbox"/> なし
11. 口の中に食べ物が残ることがありますか？	<input type="checkbox"/> しばしば	<input type="checkbox"/> ときどき	<input type="checkbox"/> なし
12. 食物や酸っぱい液が胃からのどに戻ってくることがありますか？	<input type="checkbox"/> しばしば	<input type="checkbox"/> ときどき	<input type="checkbox"/> なし
13. 胸に食べ物が残ったり、つまんだ感じがすることがありますか？	<input type="checkbox"/> しばしば	<input type="checkbox"/> ときどき	<input type="checkbox"/> なし
14. 夜、咳で眠れなかったり目覚めることがありますか？	<input type="checkbox"/> しばしば	<input type="checkbox"/> ときどき	<input type="checkbox"/> なし
15. 声がかすれてきましたか？（ガラガラ声、かすれ声など）	<input type="checkbox"/> たいへん	<input type="checkbox"/> わずかに	<input type="checkbox"/> なし

評価基準:Aに1つでも回答があれば「嚥下障害あり」、Bにいくつか回答があれば「嚥下障害疑い」と判定されます。

出典) 大熊るり、藤島一郎他:摂食嚥下障害スクリーニングのための質問紙の開発 日摂食嚥下リハ会誌6:3-8,2002



お口の機能の低下は「オーラルフレイル」の入り口です。お口から食べ続けて健康を保つためにも、質問紙の項目の症状が現れていないか気をつけて生活しましょう。また、お口の機能低下予防のために、お口の中をきれいに保つ、お口周りの筋肉を鍛えることなども心がけてみてください。気になることがあれば、かかりつけの歯科医師に相談し、お口の健康を維持しましょう。